# 緑の学舎（みどりのまち）

## ―文化（ぶんか）を彩（いろど）る 学（まな）びの畠（はたけ）―

松戸は東京都心や成田空港からアクセスが良く、多様な人々と文化を受け入る包容力を持つ。
一方で、多様な人々や文化が交流する機会に恵まれていないという問題点が有る。
そこで私達は既存の地形、水景、緑地を生かしつつ、緑豊かな活動の場を整備することで、新たな結びつきを促進し、人々が「学び合い、育つ」まちを提案する。
まちなかのアクセスを改善し、人々が活動しやすい「場」を提供することで、まちの各所ににぎわいが生まれ、訪れる人を飽きさせない回遊性が生まれる。様々な人々が活動し、結びつくことで、多くを学び互いを育て合う。そのにぎわいが松戸の独自の文化を育む。クリエイターやアーティスト、NPO 団体など、暮らす人・訪れる人が互いに学び合い見識を広げる場所は、学びの記憶と共に心に残り続ける。

## 現状と課題：3 つの視点から分析

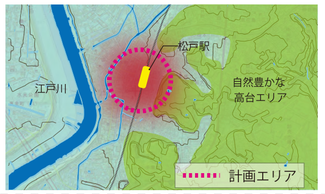
登録番号 １２―①

### 松戸の自然

**■松戸の地形的特性**

**まちの東西に江戸川と高台**があり、それらに松戸駅周辺地区は挟まれている。また高台付近は緑が豊かな空間であり、まちなかにも緑が点在しているため、**都心のベッドタウンでありながらも自然豊かなまち**といえる。

一方で江戸川と高台、線路によって**まち全体が分断されている**という問題点もある。




### 松戸のアクセスの容易さ

**■多くの人が行き交うまち**

松戸駅は常磐線・新京成線が停車するため、都心部や成田空港など**多方面からのアクセスが可能**であり、通勤通学の駅利用者が多い。また、東京外環自動車道の松戸 IC が新設され、**新たな人の流入が見込まれる**。

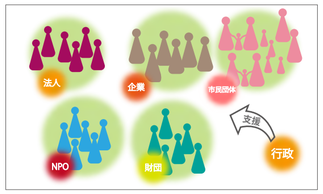
一方で、松戸駅周辺は都市基盤の老朽化が進んでおり、**都市基盤の更新が必要**となっている。

### 松戸の市民活動・文化

**■市民活動が活発なまち**

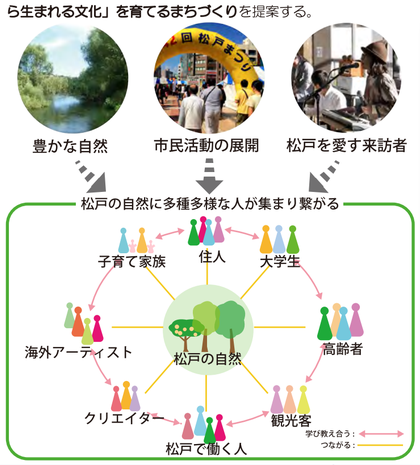
多世代、多様な住民が暮らす松戸市では、NPO 団体や公設民営のサポート機関が支援する**市民団体が多く活動している**。

近年では、行政の助成を受けてクリエイティブ層を誘致するまちづくりを進める民間企業や、アーティスト支援を行う団体など**様々なコミュニティの活動**が目立ち始めている。




## 提案：豊かな環境のもと、人の活動により文化を育てるまち松戸へ

松戸にある自然や様々な人やものが集まるポテンシャルを活かし、**松戸にある市民活動を介して文化を育てるまちづくり**を提案する。自然を活かした都市空間を形成し、そこに人々が活動する場を設ける。多種多様な人々がここで結びつき、互いに自分の得意なことを教え合い、興味のあることを学び合う。そうすることで、**「松戸に来れば多種多様な人に出会い、好きなことを学ぶことができる」**という松戸の新たな印象を与えることができる。こうした**「学びから生まれる文化」を育てるまちづくり**を提案する。




### 「新拠点エリア」の位置づけ

**松戸の文化を発信**

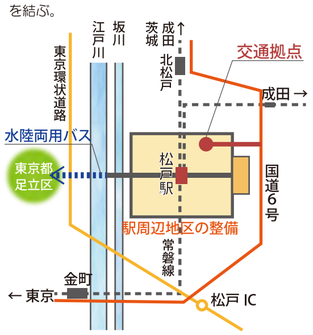
庁舎、図書館、市民ホール、美術ギャラリーなどのまちの核となる機能が集積し、松戸の顔となる「新拠点エリア」は、松戸での**「学び合いから生まれた文化」を外に発信する場**として位置づける。

## まちづくりの流れ

### 1 交通基盤・都市基盤の整備

**■周辺地区と松戸駅の交通基盤整備**

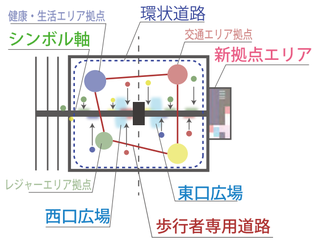
松戸駅へのアクセスを更に容易にするため、**交通基盤を整備**する。国道６号線からアクセスするの車の駐車場、高速バスの停留所などをもつ**「交通拠点」を新設**し、江戸川を渡る**「水陸両用バス」の運行**などを行い、松戸とその他の地域を結ぶ。




**■松戸駅周辺地区の都市基盤整備**

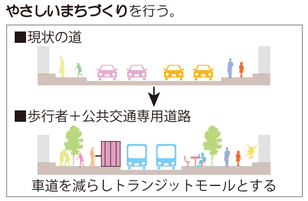
松戸駅を囲むように**歩行者専用道路**を設け、その外側に**車の環状道路**を整備する。歩行者専用道路沿いに**市民活動のための４つの拠点**を設けることで**市民活動を活発化**し、環状道路に**循環コミュニティバス**を走らせることで、まちの**回遊性を生み出す**。

また、松戸駅と松戸駅西口・東口エリアの再開発により、**駅周辺の都市基盤の更新**を図る。




**■シンボル軸上の豊かな歩行者空間の創出**

シンボル軸に一部**トランジットモール**（歩行者と公共交通の専用道路）を設け、現状の**ペデストリアンデッキを再開発エリアまで延長**させる。歩行者空間にひろがりをもたせることで、**人にやさしいまちづくり**を行う。



### 2 人々の活動・交流を促進させる場所をつくる

**■都市の軸上のにぎわいの場**

まちの主要な道の交点やシンボル軸沿いに「松戸カルファー」を設け、**人々の活動や交流を促進させる場所**をつくる。

アクセスがしやすい場所に設けることで、まちの外から来た人にも市民活動に参加できるきっかけをつくることができる。

**「松戸カルファー」とは**　※「松戸＋カルチャー（文化）＋ファーム（育む）」の意味を込めた造語

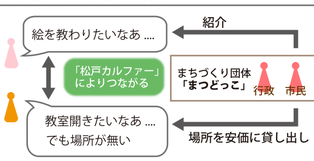
緑化による豊かな都市空間を形成しつつ、人々を留めて、活動・交流を促進させる空間。

ex）公園、都市のスキマの緑地、ビルの屋上庭園、JR 松戸駅、坂川沿い、江戸川の河川敷、ふれあい松戸川、ペデストリアンデッキの上、コンテナなど

### 3 人々の活動が活発な文化が薫るまち松戸へ

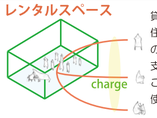
**■市民の「やってみたい」を支援する様々な場所の提供**

行政や市民、NPO 団体で構成された**まちづくり団体「まつどっこ」**により、「松戸カルファー」の一部を市民に貸し出し、その活動を紹介することでまちのにぎわいをつくる。**駅近で安価であるメリット**により、様々な活動の活発化が見込まれる。




**■まちの外から来た人も利用でき、松戸の文化が生まれる市民活動スペース**

**レンタルスペース**

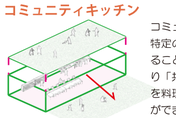



貸しアトリエやスタジオなど住民以外の人でも借りることのできるスペース。
支払われた料金は「まつどっこ」の運営費用の一部として使われる。

**共有ロッカー＆情報掲示板**

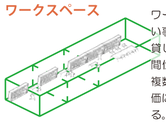
まちの外から来た人が利用できる共用ロッカーを設置。
市民活動を自由に宣伝することができる情報掲示板がある。

**コミュニティキッチン**



コミュニティーキッチンでは特定の時間を指定し、予約することで、料理教室を開いたり「共有菜園」で穫れた作物を料理し、食事を楽しむことができる。

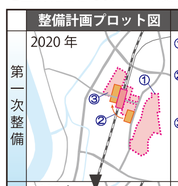
**ワークスペース**



ワークスペースは松戸で新しい事業を開拓する人のための貸しスペース。
間仕切りを取り払うことで、複数の団体が場所を共有し安価に場所を借りることができる。

## 都市基盤の段階整備計画

都市基盤の整備として、駅前空間と新拠点エリアを整備し、徐々に整備範囲を広めていく段階的整備を提案する。

| | 整備計画プロット図 | 整備内容 |
|---|---|---|
| 第一次整備 | 2020 年  | **①新拠点エリアの整備**<br>高台にある新拠点エリアを整備する<br>**②バス停の移設**<br>東口の既存のバス停を西口に移設し、駅前のバス停を集約する<br>**③松戸駅、西口・東口エリアの再開発**<br>ファサードのデザインを統一し、屋上緑化など都市の駅前としてふさわしい景観をつくる |
| 第二次整備 | 2025 年 | **④シンボル軸の整備**<br>シンボル軸の歩行者空間の整備を行い、ペデストリアンデッキを再開発エリアまで延長させる<br>**⑤新拠点への機能の移設**<br>新拠点に庁舎・図書館・市民会館などの機能を移設する<br>**⑥「松戸カルファー」の整備**<br>空地やシンボル軸上の緑化を進める |
| 第三次整備 | 2030 年 | **⑦環状道路の整備**<br>歩行者専用道路と車の環状道路を整備し、循環コミュニティバスを運行することで、駅前の回遊性を高める<br>**⑧４つの拠点を新設**<br>庁舎跡地などの空地に市民活動のための拠点を新設する<br>**⑨坂川デルタ**<br>坂川沿いに親水空間を新たに設ける |

登録番号 １２－②

## ＪＲ松戸駅（植物園）

駅のコンコースをガラス張りの植物園とし、多種多様な緑があふれる象徴的な駅空間となる。移動や待合の空間としてだけでなく、植物に関する学びの空間としても機能する。




## 健康・生活エリア拠点（スポーツジム）

スポーツ施設と温泉の複合施設。地域住民の利用だけでなく、江戸川マラソン大会などのスポーツイベントの拠点として機能する。スポーツを通して健康を学び、健やかな生活を育む。

さまざまなタイプの空間を用意して新たなスポーツへの学びを促す



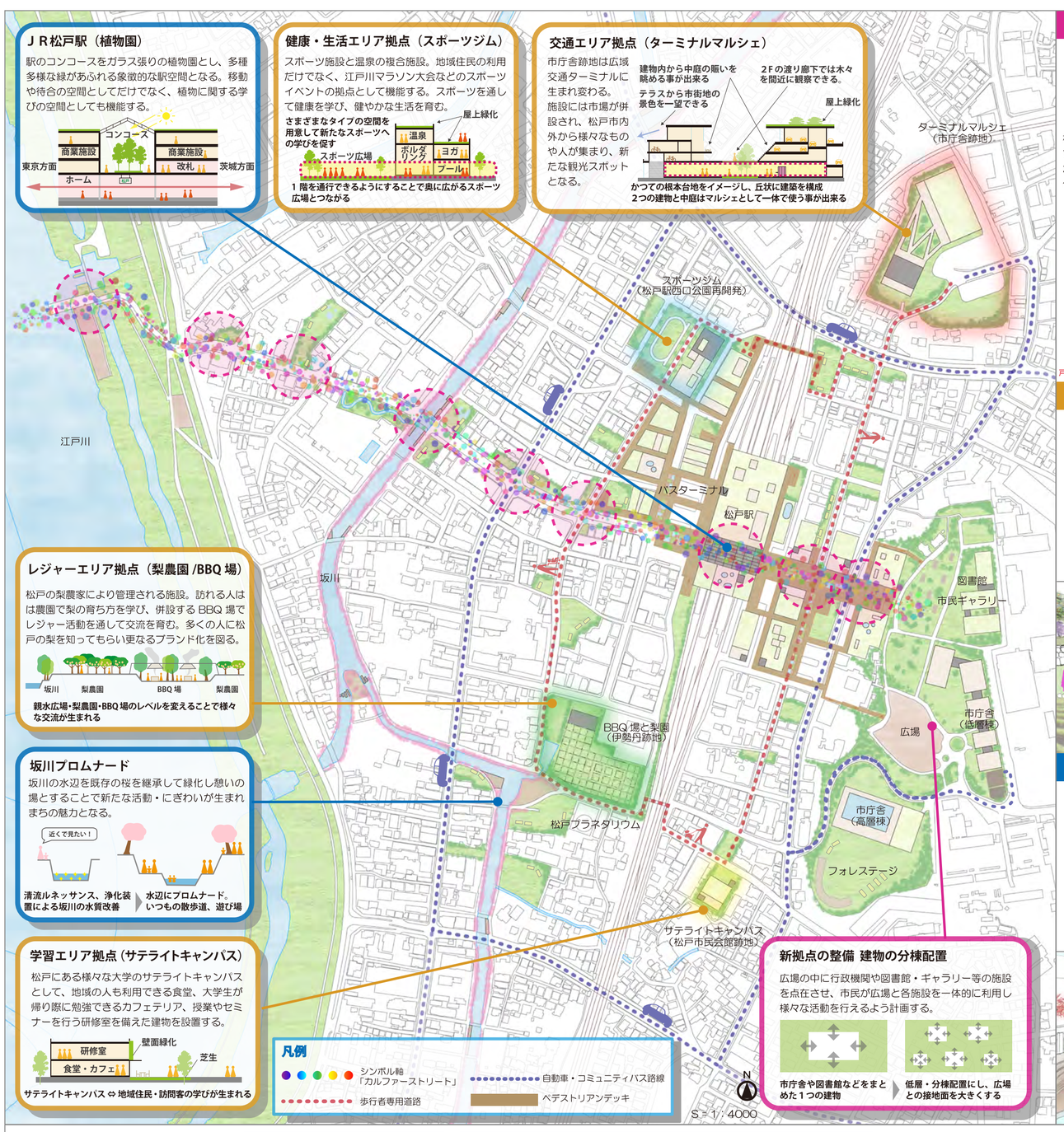

１階を通行できるようにすることで奥に広がるスポーツ広場とつながる

## 交通エリア拠点（ターミナルマルシェ）

市庁舎跡地は広域交通ターミナルに生まれ変わる。施設には市場が併設され、松戸市内外から様々なものや人が集まり、新たな観光スポットとなる。




かつての根本台地をイメージし、丘状に建築を構成
2つの建物と中庭はマルシェとして一体で使う事が出来る




## レジャーエリア拠点（梨農園 /BBQ 場）

松戸の梨農家により管理される施設。訪れる人は農園で梨の育ち方を学び、併設する BBQ 場でレジャー活動を通して交流を育む。多くの人に松戸の梨を知ってもらい更なるブランド化を図る。




親水広場・梨農園・BBQ 場のレベルを変えることで様々な交流が生まれる

## 坂川プロムナード

坂川の水辺を既存の桜を継承して緑化し憩いの場とすることで新たな活動・にぎわいが生まれまちの魅力となる。




清流ルネッサンス、浄化装置による坂川の水質改善 ▶ 水辺にプロムナード。いつもの散歩道、遊び場

## 学習エリア拠点（サテライトキャンパス）

松戸にある様々な大学のサテライトキャンパスとして、地域の人も利用できる食堂、大学生が帰り際に勉強できるカフェテリア、授業やセミナーを行う研修室を備えた建物を設置する。




サテライトキャンパス ⇔ 地域住民・訪問客の学びが生まれる

## 新拠点の整備 建物の分棟配置

広場の中に行政機関や図書館・ギャラリー等の施設を点在させ、市民が広場と各施設を一体的に利用し様々な活動を行えるよう計画する。

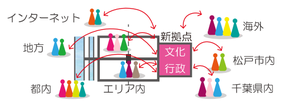


市庁舎や図書館などをまとめた１つの建物 ▶ 低層・分棟配置にし、広場との接地面を大きくする

### 凡例

- シンボル軸「カルファーストリート」
- 歩行者専用道路
- 自動車・コミュニティバス路線
- ペデストリアンデッキ

## 松戸カルファー①　「新拠点」で学ぶ・育む



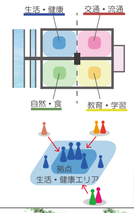

松戸の玄関・松戸駅と繋がり、松戸を見渡す高台に立地する新拠点は、市民の生活・活動を支える拠点でありながら、様々な学びが集積し、学び合いの中で生まれた文化を発信する拠点となる。

新市庁舎からの景色
高台に建つ市庁舎展望デッキからは、広いつながりと松戸のにぎわいを望む

松戸市民の憩いゾーン
建物が点在する広場は、すきまに樹木やコンテナが配置され、市民が憩う場所となる

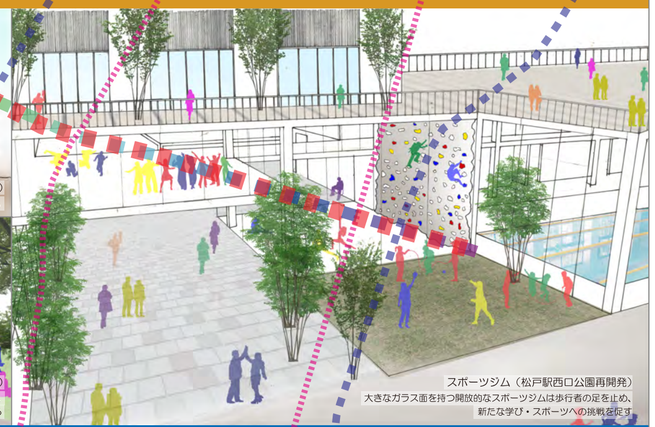
新拠点と駅をつなぐ大階段広場・ペデストリアンデッキ
両脇に駐車場機能を備える大階段は、新拠点のゲートとして、日々多様な人が行き交う、賑わいの舞台が生まれる。

## 松戸カルファー②　「エリア拠点」で学ぶ・育む




４つのエリアに配置する松戸カルファーは、それぞれの特徴的な活動を支える拠点として、深い学びを提供し、新たな活動やディープなコミュニティを育む。

ターミナルマルシェ（市庁舎跡地）
広域バスターミナル・パーキング・マルシェを備える施設は、多様な人・ものが集まる松戸を象徴する拠点となる

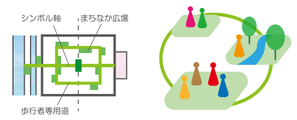


スポーツジム（松戸駅西口公園再開発）
大きなガラス面を持つ開放的なスポーツジムは歩行者の足を止め、新たな学び・スポーツへの挑戦を促す

BBQ 場と梨園（伊勢丹跡地）
多くの観光客を呼び込むレジャースポットとして多様な交流を促し、松戸を学んでもらい広めてもらう拠点

サテライトキャンパス（松戸市民会館跡地）
気軽に立ち寄れるサテライトキャンパスは、気軽に学べる場所となり、学びが広がる拠点となる

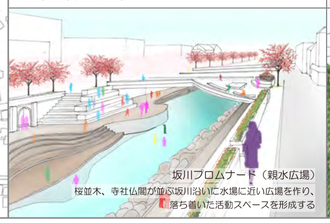
## 松戸カルファー③　「シンボル軸・広場」で学ぶ・育む



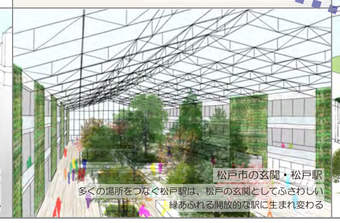

松戸駅を中心に緑でつながるシンボル軸や広場、歩行者道は小さな松戸カルファーとして学びのきっかけをつくり、松戸にあふれる自然や様々な人とのつながりを育む場所となる。

江戸川と松戸駅をつなぐシンボル軸
シンボル軸上で展開される商店や休憩スペースは江戸川～松戸駅間の動線の魅力を生む

ペデストリアンデッキとつながる広場
駐車場から生まれ変わる広場は、松戸駅からデッキ・階段でつながりまちなかへの回遊性と松戸で学ぶ小さなきっかけを生む

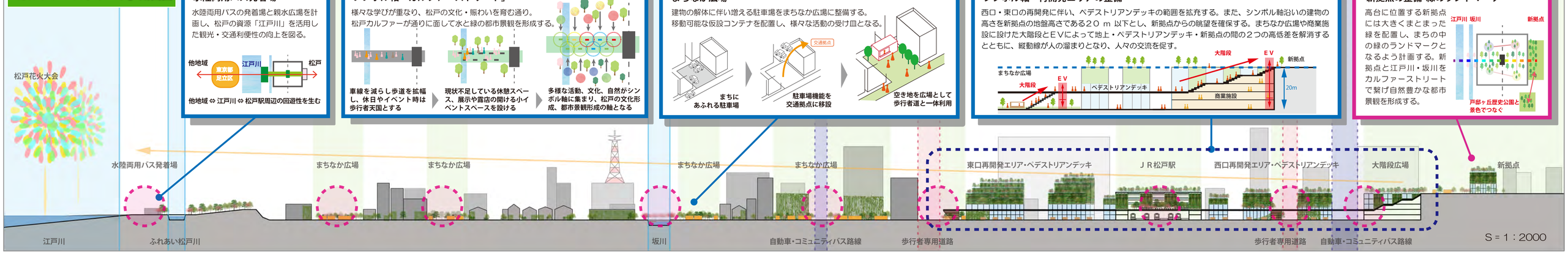


坂川プロムナード（親水広場）
桜並木、寺社仏閣が並ぶ坂川沿いに水場に近い広場を作り、落ち着いた活動スペースを形成する



松戸市の玄関・松戸駅
多くの人が集まる松戸駅は、松戸の玄関としてふさわしい、緑あふれる開放的な駅に生まれ変わる

## 「カルファーストリート」断面図




### 水陸両用バス発着場

水陸両用バスの発着場と親水広場を計画し、松戸の資源「江戸川」を活用した観光・交通利便性の向上を図る。




他地域 ⇔ 江戸川 ⇔ 松戸駅周辺の回遊性を生む

### シンボル軸「カルファーストリート」

様々な学びが重なり、松戸の文化・賑わいを育む通り。
松戸カルファーが通りに面して水と緑の都市景観を形成する。



車線を減らし歩道を拡幅し、休日やイベント時は歩行者天国とする ▶ 現状不足している休憩スペース、展示や露店の開ける小イベントスペースを設ける ▶ 多様な活動、文化、自然がシンボル軸に集まり、松戸の文化形成、都市景観形成の軸となる

### まちなか広場

建物の解体に伴い増える駐車場をまちなか広場に整備する。
移動可能な仮設コンテナを配置し、様々な活動の受け皿となる。




まちにあふれる駐車場 ▶ 駐車場機能を交通拠点に移設 ▶ 空き地を広場として歩行者道と一体利用

### シンボル軸・再開発エリアの整備

西口・東口の再開発に伴い、ペデストリアンデッキの範囲を拡充する。また、シンボル軸沿いの建物の高さを新拠点の地盤高さである２０ｍ以下とし、新拠点からの眺望を確保する。まちなか広場や商業施設に設けた大階段とＥＶによって地上・ペデストリアンデッキ・新拠点の間の２つの高低差を解消するとともに、縦動線が人の溜まりとなり、人々の交流を促す。




### 新拠点の整備 緑のランドマーク

高台に位置する新拠点には大きくまとまった緑を配置し、まちの中の緑のランドマークとなるよう計画する。新拠点と江戸川・坂川をカルファーストリートで繋げ自然豊かな都市景観を形成する。